

企画セッションプログラム

セッション	日時	タイトル（企画責任者）
1	12月7日（水） 13:00～15:00	再生可能エネルギーの適正な導入に向けて一環境アセスメント及びゾーニングとの関係を中心として 大塚 直（早稲田大学法学部）
2	12月10日（土） 10:00～12:00	海岸環境の保全と整備にかかわる利害調整 谷下 雅義（中央大学） 清野 聡子（九州大学）
3	12月11日（日） 10:00～12:00	日本における地域協働の先進的な取り組み・グラウンドワークが残した成果とは～グラウンドワーク三島の30年の活動から検証する～ 松下重雄（長野大学環境ツーリズム学部）

開催形態：オンライン（ライブ配信）

参加にあたっての注意点

〈参加登録・通信環境について〉

- ・参加にあたっては大会サイト（https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2022.html）から参加手続きをお取りください（参加費は無料）。
- ・当日の運営・進行は各セッションの企画責任者にお任せしています。**セッション時の通信トラブルなどについては、大会事務局では対応できませんのでご了承ください。**
- ・安定したインターネット接続環境下で聴講ください。

〈その他〉

企画セッションの録音・録画・スクリーンショット等は、オーガナイザーの許可のない限り禁止といたします。

- ・会場に入られる際には、「名前」をフルネームに設定してください。（イニシャルや苗字のみでの参加は会場運営に支障が生じる可能性がありますのでご協力ください）
- ・セッション中は、マイクを「ミュート」、カメラを「オフ」にしてください。
- ・質問時には、オーガナイザーの指示に従いマイクを「オン」にしてください。

【セッション1】

開催日時	2022 年 12 月 7 日（水）13:00～15:00
タイトル	再生可能エネルギーの適正な導入に向けて—環境アセスメント及びゾーニングとの関係を中心として
企画責任者	大塚 直（早稲田大学法学部）
趣 旨	再生可能エネルギーについては、地域では条例等の制定により、その導入を制限する動きも激しくなっており、適正な導入のための地域での合意形成が重要性を増している。この企画では、陸上風力・洋上風力・太陽光の発電に焦点をあて、各地域の事例を挙げつつ、再エネの環境アセスメントとゾーニング、協議会の在り方などについて検討する。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「総論」（大塚 直：早稲田大学法学部） 2. 「再生可能エネルギーの合意形成に向けた環境配慮の方策と課題」（錦澤滋雄：東京工業大学環境・社会理工学院） 3. 「洋上風力にかかる事例検討」（柳憲一郎：明治大学法科大学院 法務研究科） 4. 「再エネ海域利用法に基づく法定協議会の現状と課題」（竹内彩乃：東邦大学理学部）

【セッション2】

開催日時	12月10日(土) 午前 10:00 ~ 12:00
タイトル	海岸環境の保全と整備にかかわる利害調整
企画責任者	谷下 雅義(中央大学) 清野 聡子(九州大学)
趣 旨	<p>1999年の海岸法改正以降、その目的である防護・環境・利用の調和を目指し、関係者の合意形成等を通じて地域特性をふまえた海岸環境の保全・再生を図る「自然共生型海岸づくり」が進められている。その後、東日本大震災からの三陸復興では漁業やまちづくりとの調整が大きな課題となった。また全国各地の海岸侵食対策をめぐってさまざまな議論が行われている。</p> <p>本企画セッションでは現場で起きている課題、特に市民との利害調整を中心に課題を共有し、今後の海岸づくりについて必要な取組について議論したいと考えている。</p>
内 容	<p>0. 谷下雅義(中央大): 企画趣旨の説明</p> <p>1. 阿部晃成(宮城大): 石巻市雄勝町の復興事業</p> <p>2. 千葉県: 千葉東海岸保全計画について(調整中)</p> <p>3. 清野聡子(九州大): 海岸の合意形成の協議会への住民参加の課題</p> <p>4. 意見交換</p> <p>5. 全員: とりまとめ</p>

【セッション3】

開催日時	12月11日（日曜日） 午前 10:00～12:00
タイトル	日本における地域協働の先進的な取り組み・グラウンドワークが残した成果とは～グラウンドワーク三島の30年の活動から検証する～
企画責任者	松下重雄（長野大学環境ツーリズム学部教授）
趣旨	<p>英国発の市民・企業・行政のパートナーシップによるまちづくりの仕組みである「グラウンドワーク」が1990年代のはじめに日本社会に紹介され、当時の政府の白書に取り上げられるなど、多方面の研究分野や地域活動分野から注目された。この気づきの切っ掛けとなったのが環境情報科学センター20周年記念事業「日英グラウンドワーク交流事業」である。</p> <p>この交流事業の具体的な対象地域地区になったのが「水の都・三島（静岡県三島市）」である。それを契機に複数の市民グループが連携し、日本におけるパートナーシップ型の環境まちづくりを進める中間支援組織として「グラウンドワーク三島」が設立され、多様な活動を展開し、今年で30周年を迎える。</p> <p>本企画セッションでは、グラウンドワーク三島の30年の活動の足跡をふりかえり、今後の地域協働型（パートナーシップ型）環境まちづくりの可能性と課題を展望したい。</p>
内容	<p><プログラム：全120分程度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松下重雄（長野大学教授）：趣旨説明（5分）および「グラウンドワーク概説」（10分） 2. 渡辺豊博（特定非営利活動法人グラウンドワーク三島専務理事/前都留文科大学教授）： 基調講演「グラウンドワーク三島の30年の足跡」（40分） 3. 総合討論（司会：松下重雄）： 討論者によるコメント（各5分）と総合討論・質疑応答（40分）合計60分程度 <討論者> <ul style="list-style-type: none"> ・三橋伸夫（宇都宮大学名誉教授/特定非営利活動法人とちぎ協働デザインリーグ） ・岩岡竜夫（東京理科大学教授） ・渡辺豊博 4. 渡辺豊博：総括（5分）